

モデル事業名	みかんを通じた交流サポートシステム「オレンジサポートシステム」
活動団体名	三ヶ日町農業協同組合・・・代表団体 株式会社ツーリズム・マーケティング研究所
ホームページ	<a href="http://www.ja-shizuoka.or.jp/mikkabi/">http://www.ja-shizuoka.or.jp/mikkabi/</a> <a href="http://www.tourism.jp/">http://www.tourism.jp/</a>
所属/ 担当者名	三ヶ日町農業協同組合総務部 組合員相談課 縣裕一
連絡先	電話：053-525-1019、Eメールアドレス：yui-agata@mikkabi.ja-shizuoka.or.jp
活動地域	浜松市北区三ヶ日地区（はままつし きたく みっかびちく）

● 活動地域の概要

静岡県浜松市の三ヶ日地区は、旧三ヶ日町が平成17年7月に周辺10市町村とともに浜松市へ編入合併して浜松市の一部となった。三ヶ日地区は静岡県西部、浜名湖の北岸に位置し北三方を山で囲まれた自然環境の中で温暖な気候を利用して全国的に有名な「三ヶ日みかん」などの特産物を生み出している。しかし、近年はみかんの農業収穫作業員の確保、農業の高齢化と後継者不足、地域からの人口の流出など地域として様々な問題が生じてきているとともに、市町村合併に伴い地域資源や地域性等の発信力が弱くなってきており、早急な対応が求められているところである。



【位置図】



【収穫作業員の確保が困難になってきたミカン畑】



● 活動地域の課題

農業は必要な労働力の季節変動が大きな産業であり、かつては伝統的な周辺地域の農家同士による互助システムが機能していた。しかし、農家の全体的な高齢化、都市部における定期的なアルバイト先の充実などによりこうした労働力の提供システムが機能しなくなってきており、三ヶ日地区においてもみかんの収穫時期における農業収穫作業員の確保が難しくなっている。こうした問題は全国各地の過疎地において生じており、農産物等がありながら収穫できないという「販売機会ロス」が生まれてしまうこととなり、農家の経営そのものを脅かす恐れがある。

また、三ヶ日地区は、平成17年に旧三ヶ日町が浜松市と編入合併した結果、地域資源の発信力や地域性の弱体化が懸念されているところである。

● 活動の内容

・平成21年度

活動①：地元における検討会議の開催

活動②：三ヶ日地区における現況調査および課題の整理、農業収穫作業員モニター調査の実施

基礎調査として、地元の農家、交流施設などに対してアンケート、ヒアリング等を実施するとともに、空き家、不動産物件などハード面の現況調査により、三ヶ日地区における現状と課題の体系的な把握を行う。あわせて農業収穫作業員へのヒアリングおよびアンケート調査を実施しニーズの把握等を行う。

活動③：交流サポートシステム連携地域の調査・研究

三ヶ日地区のように農繁期に農業収穫作業員が必要となる連携可能な他地域の現況調査（交流モデル地区の選定）を行う。

● 活動の成果

・平成21年度

活動①：地元における検討会議を4回開催した（平成22年1月30日現在）

活動②：空家不動産現況調査 平成21年7月27日および、9月7日・8日・9日の延べ4日間実施  
 収穫作業員の雇用の実情を把握するため農家向けのアンケート調査を実施（平成21年10月23日）  
 収穫作業員へのヒアリング2回実施（平成21年11月27日・28日）  
 収穫作業員のニーズを把握するため収穫作業員へのアンケート調査を実施（平成21年12月18～28日）

活動③：交流サポートシステム連携地域の調査・研究  
 先進的事例についてヒアリング3か所実施  
 「JAふらの」「JAフルーツ山梨」「JA出雲（2月予定）」



【空家不動産現況調査時の写真】



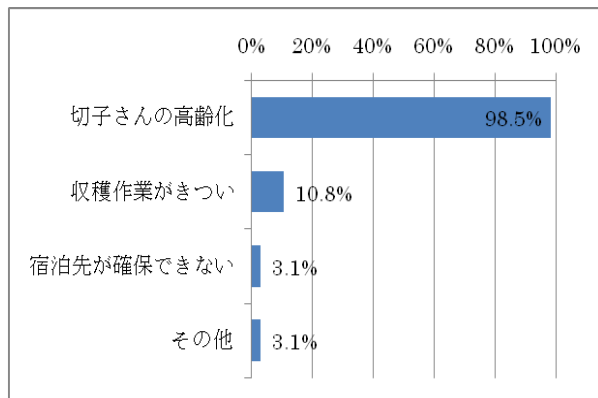
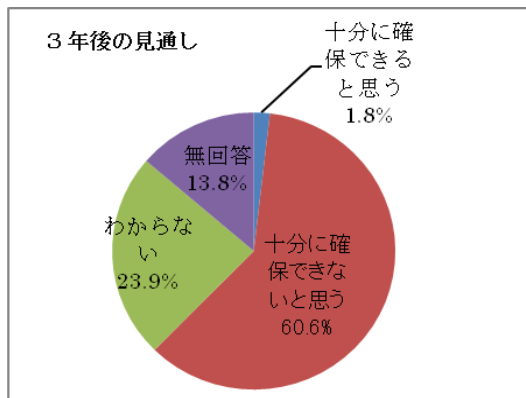
【収穫作業員モニター募集告知】

● 今後の課題及び展望

・課題

みかんの収穫作業員はこの数年慢性的に不足しており、現在稼働している者も高齢者が多く、今後の労働力確保に対して不安を抱く農家が多い。過去から続いているこの課題を解決する手法の確立が急務となっている。

収穫作業員のほとんどは周辺からの日帰りによる勤務となっており、今後、より多くの収穫作業員を確保するためには遠方からの募集も必要であり、その際には宿泊施設の確保が前提条件となる。三ヶ日町の空家比率は低い水準にあるが、倉庫代わりの空家も多く、空家の新たな提供システムの構築が必要。地元の民宿は利用可能ではあるが、みかんの収穫時期には忘年会等が多く土曜日曜の利用が困難なため、収穫作業員の利用に関しては運用の工夫が必要である。



【農家向けアンケート調査結果：「切子さん確保の見通し」「確保できないと思う理由」】

・展望

今年度の調査結果から、収穫作業員側のニーズは、軽微な農作業に短期間しかかわることであり、みかんの収穫作業員は継続性が高いことが分かった。また、実作業の1日体験などの実施により、収穫作業員の募集作業が前進する可能性が発見された。次年度以降は、収穫作業員の獲得に向けてみかん収穫の1日体験を試行する。

一定条件下では静岡県外での収穫作業従事も可能であり、他地域との収穫作業員の交流を図る「オレンジサポートシステム」のニーズが確認できた。他地域との連携を進め、全国規模の交流サポートシステムの構築に向けて検討を進め、合わせて地域間の情報発信手法の構築を進めてゆく。